成果の説明書

(氏名)　高橋 美佐	(学部)　地域政策学部

1　重要事項

（研究・調査）

- 安定マッチングにおける選好の偏りとペア満足度にかんする研究

２つの集合の要素どうしを結びつけるマッチングを求める場面は、人やモノ、組織などを対象に社会や日常に多くみられるが、各参加者のもつ選好順がどのような場合でも、ペアが崩壊しない安定マッチングの存在が保証されている。本研究では、安定マッチングを構成するペアの満足度と参加者全体の選好分布の関係について検討した。

- 本学における数理・データサイエンス教育の推進にかかわる調査研究：

学部初年次生を対象に、データサイエンス分野に対する興味関心度合いや情報リテラシーレベルにかんする調査票調査を実施した。その結果、データサイエンス学習の重要性を認識しているものの、感情的にはその認識に追いつかず、「楽しさ」を実感する段階には至っていないこと等が明らかになった。

・藤岡・高橋・田戸岡・石田・小林（2024.3）“大学初年次におけるデータサイエンスに対する興味関心と情報リテラシーの関連”,「産業研究」vol.59,no.2 pp.63-84.

（教育）

- 数理・データサイエンス教育の推進

全学対象科目「データサイエンス入門」の新規開講にともない、モデルカリキュラムを精査しつつ授業計画を策定し、４名の教員で分担担当した。また、データサイエンス教育の実施運営体制や実際の教育環境、教材開発や更新などに関して、先進事例のヒアリング調査をおこない、本学でのよりよい運営方法やカリキュラム策定について検討をおこなった。

- 学部基礎教育科目の情報分野担当の非常勤講師のコーディネートや連絡業務を担当し、授業の円滑な運営と内容の充実に努めた。

2　その他の事項

特になし

3　次年度以降の計画・抱負

- 昨年おこなった人為的な不規則性の生成に関する研究の成果をまとめる。本年度の安定マッチングにおける選好の偏りに関する研究で着手した選好の偏りを適切に表現する指標や可視化方法を検討したい。

- 数理・データサイエンス教育の推進とそれにかかわる調査研究

引き続き、本学の数理・データサイエンス教育について、関係する教員らと協力しつつ、応用レベルのカリキュラム策定や運営体制、教材の検討と更新などに関して、情報収集などの調査研究をすすめる。また、本年度実施した調査票調査を継続し、経年変化を確認しながら課題を整理したい。とくに、学習の動機付けにかんする調査票調査では、当該分野への興味関心に加え、数学などに対する苦手意識やコンピュータ不安といった抵抗感を加えた分析につなげ、カリキュラム策定等に役立てたい。